

## 第6章 配置計画図

### 第1節 前提条件

次期ごみ処理施設の諸条件は以下のとおりである。

#### 1. 計画施設の諸元

##### (1) 工場棟と地域貢献施設を別棟配置

管理事務所、見学者施設及び地域貢献施設を同一の棟とし、工場棟とは別棟で整備することとする。

##### (2) 工場棟の西側配置

工場棟はできるだけ建設用地の西側に配置する。

##### (3) 工場棟と地域貢献施設への車両の入口の分離

地域貢献施設の利用者とパッカー車等の車両の動線は分けたほうが、安全でスムーズな搬入ができることから、それぞれに入口を設置する。

また、主要なアクセス道路は長良川の堤防と南側の10.5m道路であることから、入口は北側もしくは南側の道路に接する場所に設置することを原則とする。

##### (4) 周回道路（一方通行の道路）の配置

ごみ収集車両やメンテナンス車両等(2～10t車)の安全な通行を確保するために、できるだけ車両の交差する箇所を少なくし、工場棟の全周にわたり一方通行できる周回道路を配置する。

##### (5) 搬入車の2度計量の実施

事前に登録されているごみ収集車両は、搬入時の計量のみでごみの搬入ができるが、未登録の車両や一般の持ち込み車両は、搬入時と退出時の2回の計量が必要となる。車両の動線及び計量棟の配置にあたっては、2度計量ができるように配置する。

##### (6) 地域貢献施設の配置（建設用地の中央に配置）

将来的な工場棟の建替えを想定し、将来的な工場棟の整備に支障とならず、余熱利用のための配管を接続しやすい敷地の中央付近に配置する。

##### (7) 組合等職員、見学者用の駐車場の入口付近への配置

組合等職員、見学者用の駐車場は、工場棟の周回道路を通行せずに入出りできるよう、できるだけ入口付近に設置する。

##### (8) 東側の空きスペースが活用しやすい配置

将来施設の建設用地となる可能性がある東側の空きスペースは、通常時は多目的広場などとして地域貢献施設の利用者に活用してもらうことになるが、災害時は廃棄物

の仮置き場等として活用する可能性があることから、工場棟、地域貢献施設の両方から利用しやすい配置とする。

## 2. 道路条件

周回道路

- ・ 一方通行                                      幅員 7m (地上部)                                      幅員 7m (ランプウェイ)
- ・ 対面通行                                      幅員 10m (地上部)                                      幅員 10m (ランプウェイ)

## 3. 配置施設の寸法

工場棟や管理棟等の配置する施設の寸法は、プラントメーカーへのアンケート結果より表 6-1 に示すとおりとする。

表 6-1 配置施設の寸法

単位：m

プラントメーカー		工場棟	管理棟	地域貢献施設	計量棟	ストックヤード	洗車場
A社	ストーカ式焼却炉	回答なし					
B社	ストーカ式焼却炉	83×35.5	17.5×20	30×30	7×10	20×10	10×10
C社	ストーカ式焼却炉	71.5×45	18×21	18×28	15×8.5	—	—
D社	流動床式焼却炉	64×43.5	工場棟合棟	19×20	12×13	9×9	19×9
	流動床式ガス化溶融炉	73.5×45	工場棟合棟	19×20	12×13	9×9	19×9
E社	シャフト炉式ガス化溶融炉	66.5×43.5	27×15	管理棟合棟	13×9	32×15	10×10
F社	ストーカ式焼却炉	90×55	15×56	管理棟合棟	15×8	20×10	10×10
G社	ストーカ式焼却炉	76.6×45	工場棟合棟	30×16	16×10	20×10	10×10
採用値		80×45	地域貢献施設合棟	46×23	15×10	20×10	10×10

## 4. その他の条件

- ①地下水の水位は高いため、ランプウェイを設置する。
- ②長良川の河川保全区域に該当する。
- ③建設用地の標高は 5.78～6.70m の範囲であり、周辺道路の整備は、区画整理事業で行う予定。

## 第2節 施設利用車両

施設利用車両の条件は表6-2のとおりである。

表6-2 施設利用車両の条件

搬入車両の種類		車両の種類	台数
①搬入車両	委託収集車両 (家庭系)	2t・4t・10t パッカー車、4t・10t ダンプ車	延べ最大 90 台/日 平均 40 台/日
	許可車両 (事業系)	2t・4t パッカー車、4t ダンプ車	延べ最大 40 台/日 平均 30 台/日
	自己搬入車両 (家庭系)	乗用車、軽トラック、2t トラック	延べ最大 80 台/日 平均 40 台/日
	自己搬入車両 (事業系)	乗用車、軽トラック、2t・4t トラック	
	脱水汚泥 し渣	6.5t トラック	週3回、1回に1台 数台/日
②搬出車	処理残渣	10t トラック	数台/日
	処理後資源物	2t、4t トラック	数台/日
③メンテナンス車 ※薬品・燃料搬入車等を想定		最大 10t トラック (数台/日)	数台/日
④駐車場	職員用通勤車両	乗用車、自転車	延べ最大 20 台/日

### 第3節 アクセスルート及び配置計画

#### 1. アクセスルート

施設へのアクセスルートは、周辺住民の生活環境に配慮したルートを検討する。

#### 2. 入口位置及び施設配置

入口の位置及び施設配置については、プラントメーカーへのアンケート結果に基づき5案を設定した。工場棟や地域貢献施設の入口位置や各施設の配置場所の違いによる配置案の評価を表6-3に示す。

評価において北入口案1が最も評価が高く、次いで南入口案1の評価が高くなった。本計画においては、評価が最も高い北入口案1を採用することとする。

表6-3 施設配置案の評価

配置イメージ及び改良点		北入口案1	北入口案2	南入口案1	南入口案2	南入口案3
評価項目						
	搬入動線のわかりやすさ 案内のしやすさ	入口から計量棟、ランプウェイが視認できるため動線がわかりやすい ◎ (2点)	入口から計量棟、ランプウェイは視認できず、動線がわかりにくい。 △ (0点)	入口から計量棟が視認できるため、動線がわかりやすい。 ○ (1点)	入口から計量棟、ランプウェイは視認できず、動線がわかりにくい。 △ (0点)	入口から計量棟、ランプウェイは視認できず、動線がわかりにくい。 △ (0点)
運営面 (7点)	パッカー車の動線 (入口～プラットフォームの往復)	比較的短い(片道で半周程度) ○ (1点)	長い(片道で1周程度) △ (0点)	比較的短い(片道で半周程度) ○ (1点)	長い(片道で1周程度) △ (0点)	長い(片道で1周程度) △ (0点)
	灰搬出車両及び ストックヤード利用車両の動線	ごみ処理施設をおよそ1周するだけで搬入出(計量⇒積み下し⇒計量)が可能である。 ◎ (2点)	ごみ処理施設をおよそ2周する必要がある。 ○ (1点)	ごみ処理施設をおよそ1周するだけで搬入が可能である。 ◎ (2点)	ごみ処理施設をおよそ2周する必要がある。 ○ (1点)	ごみ処理施設をおよそ2周半する必要がある。 △ (0点)
	計量待ち車両の 待機場所の確保	距離が最も短い、必要な待機場所(既存衛生センターの入口から計量棟までの距離と同等の約50m)は確保できる。 ○ (1点)	入口から計量棟までの距離が長く、十分な待機場所を確保できる。 ◎ (2点)	入口から計量棟までの距離が比較的長く、待機場所を確保できる。 ○ (1点)	入口から計量棟までの距離が比較的長く、待機場所を確保できる。 ○ (1点)	入口から計量棟までの距離が長く、十分な待機場所を確保できる。 ◎ (2点)
	搬入車両及び メンテナンス 車両の交差	パッカー車とメンテナンス車両の交差は0箇所 ◎ (2点)	パッカー車とメンテナンス車両の交差は0箇所 ◎ (2点)	パッカー車とメンテナンス車両の交差は0箇所 ◎ (2点)	パッカー車とメンテナンス車両の交差は0箇所 ◎ (2点)	パッカー車とメンテナンス車両の交差は0箇所 ◎ (2点)
安全性 (4点)	見学者の駐車場を降りてからのルート	車両の動線を通らずに見学者施設に誘導することができる。 ◎ (2点)	交通量の少ないメンテナンス動線を横断するため比較的安全である。 ○ (1点)	車両の動線を通らずに見学者施設に誘導することができる。 ◎ (2点)	車両の動線を通らずに見学者施設に誘導することができる。 ◎ (2点)	車両の動線を通らずに見学者施設に誘導することができる。 ◎ (2点)
	圧迫感	単調で高い壁面となる排ガス処理設備側と煙突が敷地南北の中央部に配置できるため、圧迫感は少ない。 ○ (1点)	単調で高い壁面となる排ガス処理設備側と煙突が敷地南側に配置されるため、圧迫感がある。 △ (0点)	単調で高い壁面となる排ガス処理設備側と煙突が敷地南側に配置されるため、圧迫感がある。 △ (0点)	単調で高い壁面となる排ガス処理設備側と煙突が敷地南北の中央部に配置できるため、圧迫感は少ない。 ○ (1点)	単調で高い壁面となる排ガス処理設備側と煙突が敷地南北の中央部に配置できるため、圧迫感は少ない。 ○ (1点)
その他 (6点)	地域貢献施設の入口 (駐車場)のわかりやすさ	工場棟への入口と南北で分かれているため、利用者が迷うことは少ない。 ○ (1点)	工場棟への入口と南北で分かれているため、利用者が迷うことは少ない。 ○ (1点)	工場棟への入口と南北で分かれているため、利用者が迷うことは少ない。 ○ (1点)	工場棟への入口と南北で分かれているため、利用者が迷うことは少ない。 ○ (1点)	工場棟への入口と同じ南側にあるため、利用者が迷う可能性がある。 △ (0点)
	将来施設用の空きスペースの活用のしやすさ	工場棟及び地域貢献施設から利用しやすい。 ◎ (2点)	工場棟及び地域貢献施設から利用しやすい。 ◎ (2点)	工場棟及び地域貢献施設から利用しやすい。 ◎ (2点)	工場棟及び地域貢献施設から利用しやすい。 ◎ (2点)	工場棟及び地域貢献施設から利用しやすい。 ◎ (2点)
	将来施設(更新施設)への車両動線の確保	既存の入口を利用した車両動線の切り替えができる。(駐車場を一時的に変更する必要がある。) ○ (1点)	既存の入口を利用した車両動線の切り替えができる。 ◎ (2点)	既存の入口を利用した車両動線の切り替えができる。(将来施設において計量棟までの距離が十分に確保できない可能性がある。) ○ (1点)	既存の入口を利用した車両動線の切り替えができる。(将来施設において計量棟までの距離が十分に確保できない可能性がある。) ○ (1点)	入口及び車両動線の変更が必要となる。 △ (0点)
	堤防小段道路の拡幅	パッカー車の多くは堤防道路から坂路を通り北側入口から進入するため、小段道路の拡幅は不要である。 ○ (1点)	パッカー車の多くは堤防道路から坂路を通り北側入口から進入するため、小段道路の拡幅は不要である。 ○ (1点)	南側入口から進入するためには、小段道路の拡幅が必要になる。(整備費:約5,000万円、設計費1,000万円) △ (0点)	南側入口から進入するためには、小段道路の拡幅が必要になる。(整備費:約5,000万円、設計費1,000万円) △ (0点)	南側入口から進入するためには、小段道路の拡幅が必要になる。(整備費:約5,000万円、設計費1,000万円) △ (0点)
コスト増 (3点)	ランプウェイの数	ランプウェイは1本 ○ (1点)	ランプウェイは1本 ○ (1点)	ランプウェイは1本 ○ (1点)	ランプウェイは1本 ○ (1点)	ランプウェイは1本 ○ (1点)
	玄関棟の設置	玄関棟は無い。 ○ (1点)	玄関棟は無い。 ○ (1点)	玄関棟は無い。 ○ (1点)	玄関棟は無い。 ○ (1点)	玄関棟は無い。 ○ (1点)
総合評価(20点満点)		◎ (18点)	○ (14点)	○ (15点)	○ (13点)	△ (11点)

### 3. 配置計画図

配置計画図は図6-1のとおりである。

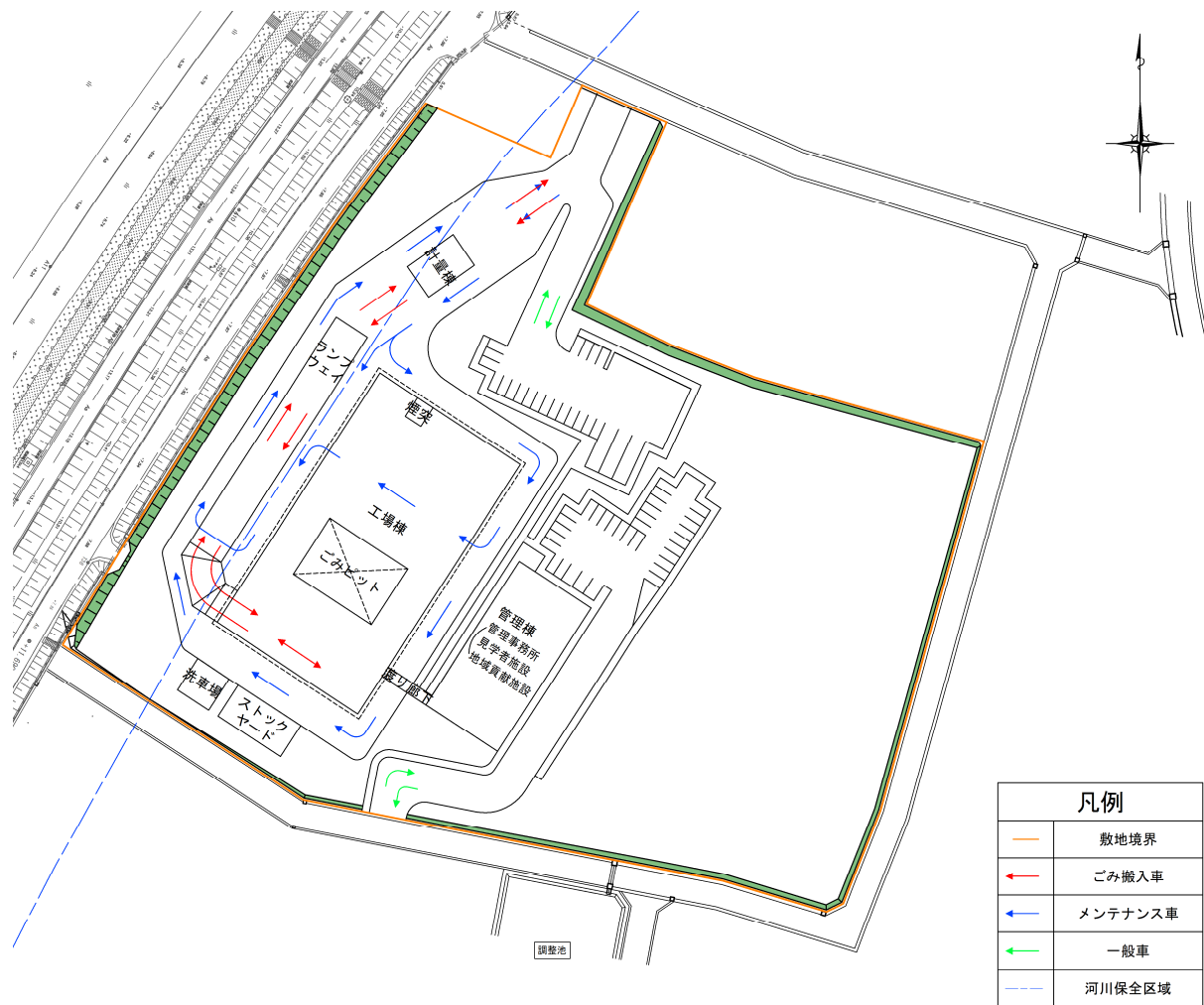


図6-1 配置計画図 (S=1/2000)